

## 5 一採卵鶏農場で発生した *Enterococcus durans* に関連した鶏脳軟化症

○<sup>サトウ</sup>佐藤のぞみ・庄山剛史（三重県北勢家畜保健衛生所）  
・竹馬工（三重県中央家畜保健衛生所）

平成 27 年 5 月、管内一採卵鶏農場において、初生導入した 1 週齢未満の群の死亡羽数が増加した。雛には歩行困難や脚の振戦、斜頸といった神経症状が見られた。6 日齢の 5 羽について病性鑑定を実施したところ、剖検ではいずれの雛にも著変は見られなかった。組織学的には、5 羽すべての雛に大脳半球や脳幹部に多巣性脳軟化が認められた。軟化巣内に一致して、毛細血管における菌栓塞、硝子血栓の形成が認められたが、炎症性変化は認められなかった。小脳には軟化巣は認められなかった。また、5 羽中 4 羽で脾臓における莢組織の線維素の析出を伴う巣状壊死が認められた。細菌検査では、すべての検体の脳、肺および肝臓よりグラム陽性球菌が分離され、*Enterococcus durans* (*E. durans*) と同定された。上記検査結果より、本症は *E. durans* に関連した脳軟化症と診断された。その後、当該鶏群の死亡羽数は減少し、9 日齢には終息した。症状の特徴、発生が一過性で症状が概ね 10 日齢以内の雛に局限すること、細菌検査所見や病理検査所見の特徴は、*Enterococcus* に関連した鶏脳軟化症を報告した過去の文献とよく一致する。この疾病は、平成 3 年にベルギーで発生して以降、数例が報告されているに過ぎない。国内では平成 15 年に滋賀で、平成 16 年から 17 年にかけて秋田で、いずれも地鶏における報告があるが、近年の発生はなく、本症例は採卵鶏における国内初の事例となった。過去の報告同様、本症例においても軟化巣に一致して血栓の形成が見られたことから、虚血性の機序で発生していると考えられた。しかし血栓形成の機序については今後解明すべき課題である。本症同様に軟化巣を作り、雛に神経症状を引き起こす疾病としてはビタミン E 欠乏性脳軟化症がある。ビタミン E 欠乏性脳軟化症では、卵黄囊内のビタミン E が枯渇した後の 15 日齢から 30 日齢で症状が現れることが多い。さらに、病変が小脳に主座することが特徴であることから、本症例とは異なると考えられた。